
韓国における日本語接触と若者の日本語使用について

——大学生を対象としたアンケート調査から——

金 美貞

要 旨

現在韓国国内において、どのような状況でどのような言語接触が見られるのか、また、言語接触によってどのような現象が起こっているのか、韓国の大学生を対象にアンケート調査を行った。その結果から、韓国語と日本語の接触を中心に、その状況と若者の日本語使用の特徴を考察した。

日本語接触の場合には、日本語母語話者と互いに接触するケースよりも、日本のマンガやアニメなどによる一方的な接触が多いことが明らかになった。そのため、日本語学習の経験に関係なく、若い韓国語話者同士の日本語使用が存在する。若者が用いる俗語として現れる日本語は、SNS などのインターネット上のやりとりにおいても観察され、韓国内で独自に発生している現象として注目される。

1. はじめに

現代社会では、国際化の流れに加わり、インターネットやモバイル通信機器などの普及により、情報化・デジタル化が進んでいる。同時に、人の移動も急激に増え、他の国や地域の言語に触れることが多くなってきた。

韓国においても、外国人住民が増えており、様々な形で言語接触を経験するようになった。言語接触の現象は、移住や転居のような移動を伴うのか、コミュニティの形成があるのか、他言語話者との接触はどのようなものか、

などの社会的な状況によって様々なレベルで考えることができるが、本研究では、韓国内の個人が経験する言語接触に注目し、大学生を対象に意識調査を行った。

以下、コミュニケーション状況の変化と言語接触の経験、及び他言語の使用状況などを調べたアンケート調査の結果を報告する。

2. 調査概要

調査は 2015 年 9 月に、韓国の啓明大学校の学生を対象に行った。共通教養科目として日本語を選んだ学生たちに協力してもらったが、新学期の第 1 週だったので、大学の授業での日本語学習歴はないものと判断した¹⁾。

質問紙による自己記入式のアンケートを、授業のはじめに配布し、授業後に回収する方法で行った。調査票は 146 名から回収されたが、外国人留学生²⁾の回答を除く 140 名の結果を考察の対象とする。男女の内訳は、男子 51 名・女子 86 名・性別不明 3 名である³⁾。年齢は 18 ～ 24 歳である。

調査項目は、以下のように設定し、詳細を尋ねた。

- (1) 外国人または外国語との接触経験
- (2) 日本語との接触と日本語の使用
- (3) インターネット・モバイル環境における言語接触

質問は選択式と自由記述式にし、項目によって語・表現の例とコメントを書いてもらえるように工夫して作成した。これらの項目への回答に基づき、まず、§ 3.1. で韓国語非母語話者との接触経験と状況を概観する。次に、§ 3.2 から日本語との接触を中心に調査結果を示し、韓国の大学生が日本語とどのように接触し、どのように日本語を使用しているのかを考察する。

3. 結果と考察

3.1. 他言語話者との接触

最初に、他言語話者との直接的な接触について、どのような状況で接触を経験しているのか、次のように質問した。

Q. いままで外国人（韓国語非母語話者）と話した経験がありますか？

140 名中 119 名（85%）が韓国語非母語話者と話したことがあると答えた。その状況や相手を具体的に回答してもらったところ、高校までの学校や塾などのネイティブ教師（71 名）が一番多く、接触した言語も英語に集中している⁴⁾。次いで偶然の出会い（外国人に道を聞かれる・アルバイト先の客など、47 名）、留学生や隣人などの知人（31 名）が上位にある。海外旅行や留学のような、被調査者自身が韓国から海外へ移動したことによる言語接触よりも、韓国内で経験する接触が多いことがわかる。

日本や中国など、アジア地域を旅行したというコメントもあるが、英語以外の言語で会話したという回答は見当たらなかった。接触の相手が英語母語話者ではない場合においても、コミュニケーションをとるために英語が選択されることが多いためだと考えられる。また、英語幼稚園に通ったという回答もあったので、英語早期教育の影響も大きく、韓国の大学生は外国語の学習という形で早い時期から英語に接触していると言えよう。

それでは、日本語との接触はどのような状況にあるのだろうか。英語と比べて、日本語母語話者との接触の機会は少ないと予想されるが、次節以降で日本語との接触や日本語使用に関する項目の結果を見てみよう。

3.2. 日本語との接触

調査に協力してもらったのは、韓国の大学で日本語の授業を履修している

学生たちである。日本語を学習する前から知っていることばがあったのかを聞き、その例を自由記述式で書き出してもらった。正式な学習前から知っている日本のことばや表現があったとした 115 名（82.1%）の回答から、延べ数の多い順に示したのが表 1 である⁵⁾。

回答数が 5 以下のものは表に示さないが、具体的に回答されたことばの異なり語数は 102 である。また、「知っていることばが多すぎて全部書き出すことができない」というコメントもあり、普段から様々な語や表現を日本語と認識していることがわかる。

表 1 知っている日本語

語・表現	回答数（延べ）
おでん	33
ありがとう（ございます）*	28
なに	20
かわいい	14
いっぱい	14
すみません	14
玉ねぎ	13
～です	12
あいさつ表現**	12
すごい	11
すし	9
楊枝	9
弁当	7
おはよう	7
こんにちは	6
さようなら	6
頑張れ	6
美味しい	6

* 「ありがとう」 24 例、「ありがとうございます」 4 例

** 具体的な語・表現の例ではなく、「簡単なあいさつ」「基本的なあいさつ」「感謝の表現」としたもの

このうち、「おでん」「玉ねぎ」「楊枝」「弁当」は、国語醇化運動⁶⁾の対象語で、長い期間にわたって使用されているものの、韓国語に直すべきだという意識も強いことばである。そのため、「祖父母や親戚の大人が使うことがある」「学校の授業やメディアを通して醇化すべきことばとして教わった」というコメントが見られる。以下、自由記入式で書いてもらった具体的なコメント例である。被調査者は、個人番号に性別（m/f）と年齢を並べて示す（日本語訳は筆者による）。

27-f-21：「玉ねぎ」や「おでん」のような単語は、初等学校の授業で日本語だと初めて知った。

50-m-26：国語の授業で（日本語から韓国語へ）先生に訂正された。

上記の名詞類以外は、近年の日本文化の受容に伴い、新しく入った日本語と言えそうである。あいさつの表現と「かわいい」「すごい」のような形容詞、「～です」のような文法項目が上位にあった。このようなことばが日本語だと知ったきっかけを聞いた結果、子供の時から見ていた日本のマンガやアニメから自然に覚えたという回答が多く、ドラマや日本の歌から聞いて覚えたという回答もあった。

04-f-21：アニメとマンガから。翻訳されていないマンガも見た。

54-f-19：初等学校の時からダビングされていない日本のアニメを見た。

91-f-22：「犬夜叉」やJpopの歌詞から覚えた。

また、回答数は少ないが、「私」「愛」「好き」「女の子」「男の子」といったことばが挙げられたことから、マンガなどの影響が大きいということが推察できる。さらに、「どこですか」「そうですか」「愛してる」「お元気ですか」「何これ？」のように、語や句のレベルを超えているような例もあった。

これらは、マンガやアニメの台詞から頻繁に耳にする、分かりやすく典型的な表現が印象に残ったものと考えられる。日本語話者との直接的な接触がない状況において、視聴者や読者として一方的に日本語と接触することが多いのは、韓国内における日本語接触の特徴として注目される。

3.3. 日本語の使用について

次に、普段の言語生活の中で使用する日本語があるのかを尋ねた結果である。140名のうち約半数の学生（69名）が日常的に使用する日本語があると回答した。使用するとした語や表現のリストを表2に示す。回答数3以下を除くが、異なり語数は52である。

日本語と認識する語で一番回答数が多かった「おでん」（表1）は、普段使うことがある日本語としても上位にあることが確認できる。「わさび、すし、たこ焼き、おにぎり」（各1例ずつ）のように、日本食とかかわる語彙として生き残っている日本語借用語と言えよう。

「おでん」のほかは、近年受け入れた日本文化、特にマンガやアニメなどの影響だと考えられる短い語や表現が占めている。これらの語の使用状況や相手に関して、次のようなコメントがあった。

表2 使っている日本語

語・表現	回答数（延べ）
なに	14
はい	9
かわいい	8
おでん	7
ありがとう	6
すごい	6
いっぱい	5
さようなら	4
～です	4

42-m-24 : 友達と別れる時によく「さようなら」を使う

35-f-18 : 親しい友達とふざけて言う時に「はい」と答えたり、「○○ちゃん」と呼んだりすることがある

137-f-19 : 「아노~아나타와~혼토~(あの~あなたは~本当~)」のように所々韓国語と日本語を混ぜる

親しい友達とのカジュアルな話しことばの中に、日本語を一部混ぜているようである。マンガやアニメの台詞をそのまま真似する、流行りのキャラクターを演じるといった遊びの感覚があるようで、独自の若者ことばを形成していると考えられる。

3.4. ネットスラングとしての日本語

若者の集団語的な性質が認められる日本語の使用について、インターネット上のやりとりが注目される。筆者も断片的ではあるが、見かけることがあったため、SNS などのインターネットで日本語を使うことがあるかを聞いてみた。その結果、約半数（140 名中 69 名）の学生がインターネットで日本語を使用することがあると答えた。詳細を見ると、普段の言語生活では日本語を使うことがないが、インターネットでは日本語を使うことがあるとした人が 17 名である。以下のコメントでも、SNS などで日本語に接することはよくあるとしている。

31-f-19 : ハングル表記の日本語は中高生の時から SNS で多く見ることばだった

それでは、インターネット上で用いる日本語は、どのような特徴があるのか、その実態と意識を探してみる。まず、(SNS など) インターネットで日本語を使用する場合、その日本語はどのように表記するのか、質問した。

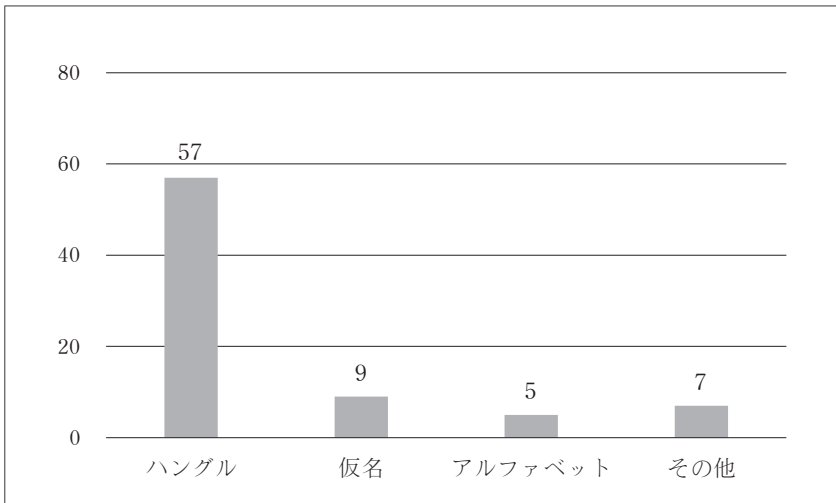


図1 インターネットにおける日本語の表記

図1から結果を見ると、「ハングルで表記する（57名）」が圧倒的に多いことが確認できる。「その他」は、以下のようにハングルやアルファベット、仮名、絵文字や顔文字まで、様々な種類の文字を一緒に使うという回答である。

15-m-19 : Death です /(^ω`)/

この結果から、インターネット上に見られるハングル表記の日本語は、日本語話者をターゲットにしたものではないと言える。関連して、日本語と韓国語を混ぜる「한본어（韓本語）」を使うことがあるというコメントもあった。「한본어（韓本語）」とはインターネット掲示板などで見ることがある、一種のネットスラングを指すもので、韓国語のテキストの一部に日本語を用いるという特徴がある。以下に筆者がツイッターやインターネットの掲示板で見かけた用例を示す（ハングルで表記された日本語部分を波線で示す）。

사스가 완벽주의자 (さすが完璧主義者)

와타시 같은 천사가 어딴다구 (私みたいな天使がどこにいる)

このような例は、使用語彙が限定的で少ないことや、一定の使用パターンが存在することなどから日本語学習のレベルに関係なく、単に日本語であることを示して遊んでいるように見える。ネットコミュニティにおける集団語の性格が強いもので、意味が不明なことから不快感を示したり、批判したりする人もいる。日本語話者との接触と日本語学習による影響とは別に、若者が好む奇異なスタイルとして日本語が選択されるという、韓国内で独自に発生した現象として興味深い。

4. まとめと課題

以上、韓国の大学生を対象に行ったアンケート調査から、日本語接触の経験と日本語使用の特徴の一端を報告した。明らかになったことは以下のである。

まず、外国人または外国語との接触は、予想通り、英語話者と英語に接触することが圧倒的に多い。一方、日本語は日本語話者との直接的な接触や日本語学習を通じた接触よりも、借用語彙や、マンガ・アニメなどによる間接的な接触が多いことがわかった。また、日本語学習の経験に関係なく、若い韓国語話者同士の日本語使用が存在すること、ネットスラングとして観察される日本語があることから、韓国内で独自に発生している言語接触の現象が確認できた。

今後は、韓国の日本語接触現象の実態を明らかにする調査が必要である。若者同士の会話や、ネットコミュニティのやりとりを記録したものをデータとして、韓国の若者の言語行動を詳細に記述していきたい。

注

- 1) 日本居住歴を持つ学生が2名（それぞれ3年間と4年間）含まれている。
- 2) 6名全員中国人留学生。
- 3) 性別不明は、被調査者の情報に未記入があったものである。回答に男女別の異なる傾向は認められなかったため、これらも含めて集計した。
- 4) 「外国人の先生」（2名）と、「日本人の先生」（2名）以外は、すべて「英語の先生」という回答だった。複数回答可としたため、延べ数で示している。
- 5) 実際に記入してもらったのは、「おめでとう」の1例を除き、すべてハングル表記であった。表記のゆれや間違いが見られるが、ここでは問題としない。ほかの語・表現の記入例と表2も同様である。
- 6) 日本植民地時代の残滓とされる日本語または日本式表現法を純粋な韓国語に改めようとした政策。

参考文献

- 井上逸兵（2006）「ネット社会の若者ことば」『言語』35-3, 大修館書店 pp. 60-67
- 岡本能里子（2012）「メディアのことばの変化」『日本語学』31-11, 明治書院 pp. 28-37
- 金東俊（1997）「韓国人の日本語観」『日本語と朝鮮語 上巻回顧と展望編』国立国語研究所 pp. 143-150
- 塚原信行＋パトリック・ハインリッヒ（2013）「ネット時代のことばと社会」『ことばと社会』15, 三元社 pp. 4-11
- 이길용・이이슬「한글표기 일본어 및 가나표기 한국어의 접촉언어적 특징」『일본연구』64, 한국외국어대학교 일본연구소, pp. 357-376
- 장태진（2004）『한국말 공동체의 연구』역락
- 홍민표（2006）「한국어 속에서 사용되는 일본어에 대한 사회언어학적 연구」『일본문화연구』17, pp. 285-299